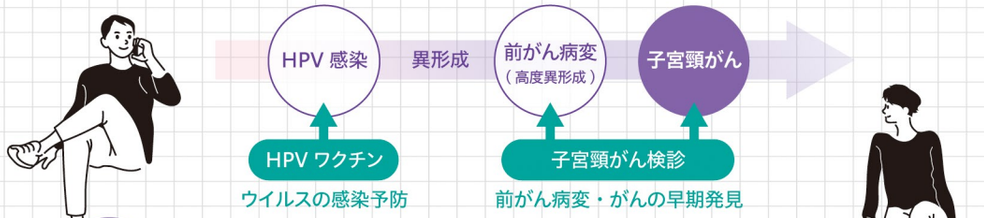
2つの子宮頸がん予防

子宮頸がんの予防は、原因となるウイルスへの感染を防ぐ予防接種と、がん細胞だけでなく、がんに進行する可能性がある「異形成」と言われる状態の細胞を発見するための検診があります。
HPV（ヒトパピローマウイルス）にはたくさんの種類があり、子宮頸がんを予防するためにはHPV ワクチン接種と検診の 2 つが大切です。



1 HPV ワクチン接種

定期接種対象者は小学校6年生から高校1年生相当の女の子ですが、定期接種の機会を逃した方も、2025年3月末まで、公費（無料）でHPVワクチンの接種を受けられます（キャッチアップ接種）。HPV ワクチンは 6 か月間に 3 回接種するため、3 回とも公費助成を受けるには、2024 年 9 月までに 1 回目を接種する必要があります。

対象 1997 年 4 月 2 日～2006 年 4 月 1 日生まれで、過去にHPV ワクチンの合計 3 回の接種を完了していない女性

※このほか、2006・2007 年度生まれの女性は、通常の接種対象（小学校 6 年生から高校 1 年生相当）の年齢を超えても、2025 年 3 月末まで接種できます。

期間 2022 年 4 月～2025 年 3 月

2 子宮頸がん検診

ほとんどの自治体では、20 歳を過ぎたら
2 年に 1 回、公費で子宮頸がん検診が受けられます。

対象 20 歳以上の女性

※HPV ワクチン接種や子宮頸がん検診の公費助成制度については、住民票のある自治体にお問い合わせください。

もっと知りたい子宮頸がん予防
子宮頸がん予防に関する詳しい情報はこちらへ
https://www.shikyukeigan-yobo.jp/youth/

MSD製薬
INVENTING FOR LIFE

2023年3月作成
OTH22PA4814

今だからできることがある
今からはじめる

子宮頸がん予防

What you can do to prevent cervical cancer

子宮頸がんは、女性の命と未来にかかわる病気。
子宮頸がんには、予防法があります。
「HPV ワクチン接種」と「子宮頸がん検診」について、
女性も、男性も一緒に考えましょう。

監修　一般社団法人 国立大学保健管理施設協議会

What you can do to prevent cervical cancer

今だからこそ知っておきたい

子宮頸がんってどんな病気？

子宮頸がんの主な原因は、HPV（ヒトパピローマウイルス）

- HPV は男性にも女性にも感染するとてもありふれたウイルス
- 海外の報告では、異性との性経験のある女性の 84.6%、男性の 91.3% が一生に一度は HPV に感染すると推計されている ※1
- 男性にも関係する肛門がんや尖圭コンジローマなどの病気の主な原因も HPV

だれでも、子宮頸がんになる可能性がある

- 主に性交渉によって感染するが、その多くは免疫によって排除される ※2
- HPV 感染から子宮頸がんになる女性はわずかだが、誰にでもその可能性がある ※2
- 排除されずに残ったウイルスの感染が長く続いた場合に、がんに進行することがある ※2

若い女性も気を付けたいがん

- 日本では、毎年 10,000 人以上の女性が子宮頸がんと診断されている ※3
- 子宮頸がんになる女性の約16%が20～30代、上皮内がん＊を含めた子宮頸がんだと約38%が20～30代 ※3

＊上皮内がん
がん細胞が臓器の表面をおおっている上皮にとどまって、その下の組織に広がっていないがんのことです。子宮頸部にできた上皮内がんの場合、自然に治癒することもありますが、進行して内部組織に広がると子宮頸がんになります。検診で見つけることができると、早期の治療（円錐切除術など）で子宮頸がんへの進行を予防することができます。
参考：日本婦人科腫瘍学会 . 患者さんとご家族のための 子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん 治療ガイドライン第 2 版（2016 年）

- 妊娠・出産を控えた世代の女性や子育て世代の女性の発症が多いことから、“マザーキラー”ともいわれる

子宮頸がんは、妊娠、出産にかかわる病気

- 毎年、約 2,900 人の女性が子宮頸がんで亡くなっている ※4
- 早期発見で命や子宮が守られる可能性が高いが、早産のリスクがある ※5
- がんが進行すると、妊娠や出産に影響を及ぼすだけでなく、命にかかわる

※1）Chesson HW, et al. Sex Transm Dis. 2014; 41（11）:660-4.
※2）笹川寿之 臨床と微生物 2009;36（1）:55-62
※3）国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）全国がん罹患データ（2016 ～ 2019 年）
※4）国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）全国がん死亡データ（1958 ～ 2021 年）
※5）Kyrigiou M et al. Lancet. 2006; 367: 489-498.

大学生が知りたい

子宮頸がん予防 Q&A

Q1. 接種券も母子手帳も実家です。実家に帰った時にしか接種できない？

A. ワクチン接種は、住民票のある自治体で接種するのが原則ですが、事前の手続きをすれば、現在住んでいる（住民票と異なる）市区町村でキャッチアップ接種ができる場合があります。希望される人は、事前に住民票のある市区町村の予防接種窓口へ相談してください。

Q2. 性交渉を経験したら、ワクチン接種は意味がない？

A. HPV にはたくさんの種類があります。性交渉の経験があっても、ワクチンで予防できる未感染の HPV に対する予防効果が期待できます。ただし、すでに感染している HPV をワクチンで排除することはできません。だから感染前にワクチンで予防することが大切なんです。

Q3. 子宮頸がん検診は、性交渉の経験がない人は受けないでいい？

A. 子宮頸がんになる可能性はかなり低いといえます。ただし子宮頸がん以外にも子宮や卵巣に関わる病気もあるため、気になる症状があれば性交渉の経験にかかわらず、産婦人科受診をおすすめします。

Q4. ワクチンと検診、どちらかを受ければ予防できる？

A. HPV にはたくさんの種類があり、ワクチン接種ですべての HPV 感染を予防できるわけではありません。一方で、検診では見つかりにくい子宮頸がんがあります。予防には、HPV ワクチンの接種と子宮頸がん検診のどちらも大切です。

Q5. HPV は男性には関係ない？

A. 男性が子宮頸がんになることはありませんが、HPV には男性も感染する可能性があります。肛門がんや尖圭コンジローマなどの病気の主な原因も HPV です。

子宮頸がんの予防は、本人だけの問題ではありません。
家族や男性にとっても、とても大切なことです。
大切な人の未来を守る子宮頸がん予防 ーHPVワクチン接種と子宮頸がん検診ー について、家族やパートナーと一緒に考えましょう。

What you can do to prevent cervical cancer